

令和 7 年度 事業報告書

川崎医療短期大学

(学校法人川崎学園 令和 7 年度事業報告書より抜粋)

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

(a) 教育目標

- ・ 健やかな心と体をもつ
- ・ 医療福祉の専門的知識・技能を身につける
- ・ 自ら学び続ける精神をもつ
- ・ 多様な人々を理解し共感する心を育む
- ・ 医療福祉人としての高い倫理観と責任感をもつ

(b) 3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

川崎医療短期大学では、所定の単位を修得し、次のような能力を備えているものに対し、卒業を認定する。

1. 医療福祉社会の担い手として、健全な心身を育めている。
2. 医療福祉の専門的な知識・技能を身につけており、社会の発展に寄与できる力を有している。
3. 修得した知識・技能により、新たな課題を発見し解決できる力を有している。
4. 他者の在り方を尊重し、支援、連携、協働できる能力を有している。
5. 誠実で礼儀正しく、社会の規範を遵守できる倫理観を有している。

カリキュラム・ポリシー

川崎医療短期大学では、本学の目的を達成するために、次の方針に基づき、教育課程を編成している。

1. 教育課程の編成は、教育目標に適確に対応する構成とする。
2. 幅広い視野と専門的な知識・技術を備えた専門職者を育成するために、全学科の教育課程は「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の各科目を体系的、順次的に配置したものとする。
3. 専門職者として社会の現場で活躍できる実践力と応用力を体得できるよう、各学科の教育課程においては、多様な講義と実習科目や学外実習との整合性を図る。

アドミッション・ポリシー

川崎医療短期大学では、本学の目的を達成するために、以下の資質を持つ学生を入学者として求めている。

1. 医療や福祉の分野で活躍するために、その知識と技術を修得する意欲のある人
2. 病気や障がいのある人の気持ちを理解するとともに、その苦悩に共感できる人
3. 社会人としての良識や倫理観を身につけ、社会に貢献したいと願っている人
4. 他者の言葉に耳を傾け、適切に説明できるというコミュニケーション能力を持つために努力する人
5. 他の医療福祉人と連携して働くために、チームワークの能力を備えている人

(2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

I. 教育

1. 学園の理念に基づいた医療福祉専門職人材の育成

実習環境については医療介護福祉学科で附属病院看護部と連携し、医療的ケアの実習を充実させた。チューター制による個別指導や小グループ指導などにより、国家試験合格率は看護学科 95.2%、医療 介護福祉学科 100%と高い率を維持できた。

2. 学生生活の支援

学生参画点検評価委員会において要望があった自修室の開放やラウンジへの電子レンジの増設などについて生活環境改善に努めた。また、日本学生支援機構の「物価高に対する食の支援事業」を活用して学生への生活支援を行った。

3. 教育体制の充実

入試広報として新たに、高等学校通信制課程への指定校枠の拡充、本学単独の「病院見学・職場体験」に特化したオープンキャンパスの開催、在学生による母校訪問、高校生の授業体験、教員による高校訪問などに取り組んだ。

4. 地域社会との連携・貢献

医療福祉に関する公開講座、介護研修、岡山キャンパス3施設合同での七夕健康まつり、岡山市ふれあい公社と連携した認知症サポーター養成講座などを開催した。また、学生による防犯街頭活動や表町周辺清掃活動に取り組んだ。

II. 研究

1. 臨床に有益な研究の推進

厚生労働省科学研究費に関わる分担研究2件、科学研究費に関わる分担研究3件があった。いずれも、研究の最終年度であり、研究の推進・まとめに貢献した。

2. 国際的に評価される研究の推進

看護学科の准教授が、科学研究費による研究成果を国際学会で発表（ポスター）した。

4. 研究体制の充実

国際学会への参加、海外からの研究者等の受入れ、国外機関への技術提供などにおけるリスク管理のため、安全保障輸出管理規程や委員会の体制の確認、「事前確認シート」の提出などに取り組んだ。また、公的研究費の管理・監査を行った。

5. 研究実績評価の確立

研究実績を教員評価の観点の一つとしている。